

令和4年度 事業活動報告

1. 静岡県森づくり貢献証（最高位：マスター）。
これまでの実績が評価されて、3年連続、県知事から認証を受けた。

2. 実施事業
 - 1) 静岡市放任竹林整備事業補助（現物支給）
提出した要望書に従い、各団体への消耗品（竹切り専用鋸、ヘルメット等）20万円相当の現物支給（6月28日）を受けて、川合山における竹林伐採、広葉樹の植樹等、関連作業報告書は3月下旬に提出した。

 - 2) 公益財団法人静岡県グリーンバンク補助金
「森づくりグループ活動支援事業」として（25万円）。
協同組合静岡流通センターの森の法面強靱化対策として、静岡の潜在植生樹5種類（スタジイ、シラカシ、アラカシ、アカガシ、タブノキ）ポット苗500本の植栽（23年3月）に適用し、報告書提出した。（写真2枚）

 - 3) 三菱UFJ環境財団、苗木寄贈事業
30万円相当の苗木代の寄贈助成事業で、毎年県庁のふれあい環境部を通して連絡があり、申請認可得ている。
流通センターの森の植樹苗に適用し、ケヤキ、楓、紅葉、コナラ等530本を植栽した（22年4月）。報告書提出した。

 - 4) イオン環境財団「里山の復元事業」助成（68万円）
静岡市瀬名地区市街地に近接する川合山（標高125m）の放任竹林伐採開始（22年12月）、3月上旬まで随時伐採・整理を継続した。1000㎡の跡地に潜在植生樹8種類（前出にヤブツバキ、シロダモ、モチノキを加えた）ポット苗590本を植栽した（3月17日、19日）。動員数は延149

名となった。その報告書の一部を添付する。

- 5) 坂の上、大平見下草刈り（自主事業）
春季草刈り大作戦は実施したが、秋期は実施できなかった。
- 6) 川根ネイチャーガイド講習：樹木学（自主事業）
道路崩壊のため、実施場所に行けず、実施できなかった。

3. 賛助寄付
中外製薬、日星電気、ヤマエイ長島建設、永山 治（中外製薬
名誉会長）

4. 問題点/反省と考察

- 1) 協同組合静岡流通センターの森事業中止の件
5ヶ年計画の半ばであるが、私の長期入院加療が発端となり、事業継続中止となった。投入費用の回収もできず、約20万円の赤字となった。契約書も覚書もなく、紳士協定約束のような形で始めた事業（NPO側が提供する役務に相当する金額を、センター側が寄付金の形で支払う形）であったが、この方式の欠陥が露呈した形となった。
初めての経験で、如何に対応すべきか逡巡し、相手の意向を優先したことが、この結果を招いたとの思いがある。
今後活かすべき失敗事例となった。
- 2) 賛助寄付会社、個人が少ない。もっと増やす対策をとる。
- 3) ふじのくに未来財団にある未収金（352,000円）の回収対策（団体指定助成の拡大）を図る。
- 4) 新たな助成団体を増やす。
- 5) 財政安定化の為に、NPO法人として、拠点を持つか否かの検討は、今後の課題である。

以上

（2023年6月15日）